

＜有識者 下呂市消防本部 消防長・消防司令長 倉坪 和郎 氏＞

(1) 下呂温泉病院の使命・役割に関連する事項について

(下呂温泉病院への期待について)

- 「使命」と「役割」を兼ねて、下呂温泉病院に「期待」することとしては、全国的にも致し方ないことだが、現在この地域では、高度救急医療については、当消防本部の救急車が岐阜地域の病院まで転院搬送しなければならない。県の防災ヘリも、気象条件が良ければかなり使ってもらっているが、救急車で往復すると、最低でも3時間は掛かる。これは、人命救助優先ということで、当然やらなければならないことであるが、そのために、こちらの守りがどうしても弱くなる。  
この地域には民間の大きな病院も無いので、下呂温泉病院には、非常に期待をしている。救急医療体制ということで、どうしても地域格差が生じてきて、早く処置をしていけば助かったのにということを感じることがある。大勢のスタッフを揃える必要はないが、数が少なくても、高度な医療をやってもらえる医師が揃っていてくれればありがたいと思っている。
- たらい回しという話があるが、下呂温泉病院の場合は、そういうこともなく、専門でない医師も当直に入ってくれて、100%とりあえず受けてもらえる。ダメならまた救急車で次へ走るということで、患者を預けて来られる。もし電話照会の段階でダメだと言われれば、次は高山市か可茂地域へ走らなければならない。そういう意味では、本当にありがたい

(市民の意識の変化について)

- 下呂温泉病院の移転問題は今回の市長選挙でも大きな課題になったが、ずっと以前から計画は上がっていたが、なかなか目に見えて進まないということもあって、下呂温泉病院の「必要性」ということを市民が真剣に考えるようになる一つのきっかけになった。  
県立病院が「あつて当たり前」ではなくなったのだということを自覚して、ではどういうところで協力していくのかということをもっともっと出していかなければならないと思っている。
- 搬送先は、患者の重症度等に応じ、医師の指示によって振り分けられる。平成18年の救急出動件数は1,375件。そのうち転院搬送が152件で1割以上を占める。救急出動件数は、年々右肩上がりが増えてきている。高齢化ということもある。平成19年は、前年比61件増の1,436件で過去最高となった。1日平均で約3.93回。人口当たりでみると、26.8人に1人が利用していることになる。全国平均も26人なので、どこも同じような状況になってきている。  
患者には観光客が多い。管外が23.81% (324人) を占める。全国的な傾向でもあり、結果論ではあるが、事後調査では、軽症・中等・重症の分類で、救急車で来るまでもないという方がやはり多い。各旅館が、旅館の車で連れて行けるのに、手っ取り早く、救急車を要請するということもある。もし重症だった場合を考えれば、後々家族にも説明しやすいなど、旅館側の都合も分かるが。現在、旅館に限らず、救急車の適正利用を広く市民にアピールするように進めている。

(下呂温泉病院の今後のあり方と下呂市の役割について)

- 現在、岐阜大学と連携して研修医の受け入れ病院としてやっているそうだが、そういう形でも、生き残り作戦としては良いと思う。

現在、地方といえばイコール医師不足だが、先日テレビで、富山県のある病院の事例を紹介していた。研修しやすい病院、研修医が希望する人気ナンバー1の病院になったということだった。研修中のフォローが良く、市民も協力して、研修医の対応の仕方の良いところ悪いところについて、市民から逆に教わるような形でやっている。受け入れ体制という点でも、宿舎もすごく良いところで。それで評判になって、将来定着してくれる可能性が少しでもあればということであるという方向性を出したようだが。

やはり、地方だから諦めるというのではなく、そういうふうになれば、これからという若い先生が多少なりとも増えるかもしれない。下呂市としても、県立病院だから県の医師住宅に入らなければならないということではなく、下呂市独自の医師住宅を作って、24時間温泉を入れて、とにかく待遇面で魅力を出す必要があるのではないかという話をしている。

- 下呂市としてできることが、まだ実際に形として出てきたわけではないが、ようやくそういう話しにまでたどり着いたというところ。ただ県に対して「新築移転してくれ」と要望するばかりではなく、市としてできることをやろうということになってきている。

#### (災害発生時の対応について)

- 中国四川大地震や、岩手・宮城内陸地震を見ていると、この辺りでも似たような被害が出そうな気がする。中津川市から下呂市まで、阿寺断層が走っている。阿寺断層は、日本の100以上の主要活断層の中でも4番目に地震発生の確率が高い活断層。30年以内の地震発生の確率は6～11%。阪神・淡路大震災でも岩手・宮城内陸地震でも、ノーマークだったのに発生した。今地震が起きて当然と考えなければならないと周知している。

国道41号線、257号線も、下呂市から北は孤立化が懸念される。いかに空輸で負傷者を岐阜方面へ運ぶかという検討をしている。

#### (2) 県立病院の地方独立行政法人化について

- 私は下呂温泉病院運営協議会のメンバーであり、本年2月の運営協議会において、地方独立行政法人化の方向で進めるということで、概略は聞いていた。

地方独立行政法人化には賛成する。2月の運営協議会で説明を聞いたが、当然今までどおり、県からの出資もあり、先程の話のように、病院が何か特徴を出そうとしてもいろいろと縛りがあってできないということで、そういうふうには、やり易くするのは良いと思う。

皆さん心配されるのは、民営に近い形になって、効率ばかり求められて、段々縮小されるのではないかなという部分だが、今の原則的な経営は維持しながら、ということなので。

県自体もかなり財政的に厳しいから、病院経営も関係してくると余計にやりにくくなるので、そういう点では、良いなと思う。